

本連盟は徹底した感染症対策の基、今まで加盟団体での活動中の感染者を出しておらず、

今後も以下の内容で感染症対策を徹底する事により、連盟少年部主催及び誘致大会を開催します。

1. 感染症対策期間中のガイドラインは「大会要項」より優先され、内容を理解した個人(保護者)判断での参加とする。
2. 試合会場(グラウンド及びベンチ)と管理区域(グラウンド周辺)を設定し、試合会場には応援・観戦者の入場は不可とする。
(管理区域・試合会場は、会場ごとにマーカーや案内図によって明記する)
3. 試合会場に入場できるのは試合に出場する選手と、スタッフ・大会役員・審判部員のみとする。
スタッフとは指導者・運営・設営担当・帯同審判で、チーム総勢2名以上5名以下で全員がベンチ入り出来る。
スタッフは少年部発行の『スタッフ証』をカードケースに入れて、常時首掛け掲示していなければならない。
同様に大会役員や審判部員も、「役員審判部員」用のIDを掲示する。
4. 全ての学年において管理区域に保護者の入場を認める。但し原則選手1名について観戦者は1名とする。付添いが必要な未就学児は対象外だが、未就学児が試合会場に入らないよう保護者は常に管理する。
5. 当日来場する全ての者は、各個人の『健康チェックシート』に氏名及び個人情報に記載し、過去2週間における起床時の体温や体調を記載し、当日の自チーム責任者の確認を受ける。
6. チーム代表者は『健康チェックシート』で過去2週間以内に37.5℃以上が続いた者や、濃厚接触の疑いの有る者を会場入りさせてはならない。(医療機関で感染症ではないと診断された者は除く)
7. 全選手・スタッフ・大会役員・審判育成会員・保護者及び付き添い未就学児など大会敷地内に留まる全ての者は、個人の健康チェックシートを持参し『大会参加者名簿』に、氏名と当日会場で検温した体温を記載して、自チームの最初の試合30分30分前に運営担当に提出し、健康チェックシートと共に確認を受けなければならない。
運営担当は健康チェックシートの枚数と名簿の人数が合う事を確認し、健康チェックシートは返却する。
8. 当日会場で検温するために各チームは体温計(接触、非接触問わず)を持参する。運営本部から体温計を借用した場合、使用後は消毒して返却する。会場で検温した体温は『大会参加者名簿』に記載する。(総合Gは別名簿に記載)
9. 当日会場での体温が正規の接触式体温計で37.5℃以上の者は入場することは出来ず、隔離措置されなければならない。
非接触式体温(表面温度)計で37.0℃以上の者は、正規の接触式体温計で再検温し、そちらの数値を優先し判断する。
10. 『健康チェックシート』は個人情報に記載されているため個人管理とする。各チーム責任担当者は当日来場の全員の健康チェックシートの内容を確認し、名簿と共に運営担当に提出する。運営担当が名簿記載の人数と健康チェックシートの数に合う事を確認出来たら個人に返却する。開催中に感染者が出た場合は対象者の健康チェックシートの提出を少年部が求める事になるが、その場合の個人情報は連盟少年部もしくは提出先の行政機関の責任において管理または処分する。
11. 提出された名簿や健康チェックシートは感染症対策のためにのみ使用し、保管した機関の責任において管理をし、使用後は返却もしくは処分する。
12. 管理区域内で**全ての来場者は、マスクを必ず着用**しなければならない。
試合会場において審判は用具チェックの際でもマスク等着用必須で、競技のフィールドでのみマスクを外す。
選手は控え選手を含め用具チェック時からマスクを外してよい(マスクを個人管理とするため)。アップの際も選手はマスクを外す。ベンチでの選手と試合の際の選手と審判員以外の者は、ベンチスタッフを含め常にマスク着用を必須とする。
マスクを個人管理とする為、マスクがどんな状態であってもチームで纏めて保管する事は禁止する。
13. 各チームは石鹸や消毒液を持参する。管理区域内に入る来場者は全て手洗い・うがい・消毒を行い、会場内では常に他人との距離を保つことを心掛ける。
14. 来場・撤収時の本部挨拶は無しにする。試合の際の開始と終了の挨拶では選手は前後左右の距離を取り主審の合図で一例のみとする。また声掛け・握手・ハグ・ハイタッチ・円陣等は禁止、スタッフ同士の挨拶も無し。スタッフは大声での指示や選手に触れる事を禁ずる。審判員は大声での「プレーオン！」発声は禁止)
15. 以上の新型コロナウイルス感染症対策は必須とするが、身体的重症や熱中症・雷など、緊急的に生命の危険度が高いものへの対策を常に優先とするために、役員・運営・指導者は対応しなければならない。